

学校評価についてお知らせします。

▶教育委員会平成 29 年度学校評価

平成 19 年 6 月の学校教育法の改正により、「学校評価の実施による学校改善」と「学校の情報の積極的な提供」が義務づけられ、学校の教育水準の向上と地域に開かれた学校づくりが求められています。

学校評価の実施手法には、『自己評価（教職員）』『学校関係者評価（保護者・地域住民など）』『第三者評価（外部専門家など）』の 3 つがあります。今回は、昨年度に各学校が行った『学校自己評価』結果について学校別にお知らせします。

【評価基準】	A = 達成できた（85%以上）	B = だいたい達成できた（60～84%）
	C = 達成状況が不十分（40～59%）	D = 達成できなかった（39%以下）

(1) 黒坂小学校（抜粋）

評価項目	具体項目	目的の達成状況	自己評価
学力の向上	言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 話し合う場面を明確に位置づけたり、話し合いの進め方を示したりすることにより、児童が互いに話し合いながら考える場面が増えた。 自分の言葉でまとめや振り返りを書いたり、発表したりする力が伸びた。 	B
	指導と評価の一体化の充実	<ul style="list-style-type: none"> 指導と評価の一体化を目指した学習過程を共有し、全学級に定着した。 家庭学習も含めた学びのスタンダード化を図った。 ICT 機器の活用範囲を広げた。 	A
体力の向上	体育学習や業間体育の充実	<ul style="list-style-type: none"> マラソン、外遊びを奨励し、体力の向上がみられた。 町駅伝大会参加や校内マラソン大会などにより、持久走への意欲が向上した。 	A
体験活動	豊かな体験活動・交流活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域を教材にした体験学習などを通して、黒坂を大切に作る心が育った。 地域の人たちへの発表活動などにより、相手意識や目的意識が高まり学習意欲が向上し、達成感、満足感を得ることができた。 保育所や日野高校との交流を通して、自己有用感や感謝の心が育った。 	A
人権・特別支援教育、生徒指導	人権教育・特別支援教育・生徒指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動など異学年間の仲間づくりが充実した。 教育相談や個別指導、日記などによる児童理解に努めるとともに、児童に対して積極的に肯定的評価を行い、自尊感情の向上がみられた。 問題行動に対する教職員の共通理解、共通実践が進んだ。 	A
家庭・地域の連携	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の改善にかかわる家庭、保護者との連携が進んだ。 学校内外でのあいさつ習慣が向上した。 	B
	地域との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事などへの参加によって地域を愛する心情が育った。 地域の良さを学ぶ内容を教育課程に位置付けた。 	A

評価項目	具体項目	目的の達成状況	自己評価
家庭・地域の連携	家庭学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習がほぼ習慣化され、基礎的学力が定着した。 ・自主学習の内容を紹介するなど、学校全体の取り組みとして推進できた。 	B

(2) 根雨小学校 (抜粋)

評価項目	具体項目	目的の達成状況	自己評価
凡事徹底	「あいさつ・返事・はきものそろえ」の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで児童の約92%が、「あいさつをしている」「よくしている」と回答している。 ・はきものそろえについても、きちんとそろえている学年を委員会で発表するなど、啓発に努めた。 	B
まなび (学力向上プロジェクト)	授業改革	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びに向けて授業改善に努めた。 ・「ねらい→まとめ・振り返り」を大切に、実践を重ねた。 ・ICT機器を効果的に活用し、児童が主体的に学習に取り組み、かわり合いながら思考を深めていくことができる授業づくりを心掛けた。 	A
	学習環境整備・家庭学習習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で授業の決まりや学習規律についてオリエンテーションを行った。 ・毎学期の初めに、児童の授業参観習慣を設けて取り組んだ。 	B
なかま (仲間づくりプロジェクト)	認め合う仲間づくり、学級づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会や福祉委員会が実施した全校遊びは、全校児童のことを考えた企画となり、みんなが楽しみながら取り組むことができた。 	B
	いじめの未然防止、早期発見・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関して、早期発見、即時対応ができた。 ・学期に1回児童アンケートを実施し、カウンセリング週間を設定して、児童理解・児童の実態把握、指導ができた。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携しながら、毎月、いじめ・不登校対策委員会を開催し、未然防止や早期発見・早期対応を図った。 ・アンケートで、「まわりの人の気持ちを考えながら生活している」と回答している児童の割合が増えた。 	A
あそび (元気いっぱいプロジェクト)	体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・日野郡小体研と連携しながら、体育授業の研究推進に取り組んだ ・課外水泳には3年生から、夏季チャレンジ水泳には1年生から参加するなど、体力向上を目的とした新たな取り組みができた。 ・パワーアップタイムの時間に、「鬼ごっこ」や「先生と遊ぼう」という日を設け、みんなで力一杯遊ぶことができた。 	B
	環境づくり・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップタイムでは、元気づくり委員会が中心となって、マラソン・ラジオ体操・縄跳びに取り組んだ。 ・ボールなどの補充、遊具のペンキ塗りなど、環境整備を進めた。 ・校庭や体育館、遊具などの安全点検を計画通り行い、安全管理に努めた 	A